

PAM通信 コラム

2008年12月発行

<第21回>タイトル：あなたなら（その2：配慮）

前回は引き続き、今回のコラムでも、まず以下の物語を読んでみてください。そしてその後、あなたならどうするかを考えてみてください。

厳しい寒さをしのぐため、一匹のヤマアラシがモグラの家族に、冬の間だけ一緒に洞穴の中にいさせてほしいとお願いしました。モグラたちはヤマアラシの願いを聞き入れてくれました。けれども、その洞穴はとても狭かったので、ヤマアラシが洞穴の中を動き回るたびに、モグラたちはヤマアラシの針に引っ搔かれてしまうことになったのです。ついにモグラたちはヤマアラシに洞穴から出て行ってくれるようにお願いしました。ですが、ヤマアラシはこのお願いを断りました。そして言ったのです、「ここにいるのが嫌なんだったら、君たちが出て行けばいいじゃないか」

どう思いましたか？あなたならこの問題にどう対処しますか？

では、以下の文章の中からあなたの考えに一番近いものを選んでみてください。

- (1)洞穴は元々モグラの家族が住んでいたのだからヤマアラシが出て行くべきだ。
- (2)モグラの家族はヤマアラシが冬の間は洞穴に住むことを承諾した(同居の契約をした)のだから、洞穴を出て行くのは、洞穴にすむことが嫌になったモグラの家族だ。
- (3)ヤマアラシの体を毛布でくるんであげる。
- (4)洞穴を広くしてヤマアラシの針がモグラの家族に刺さらないようにする。

あなたの考えはどの文章に一番近かったでしょう？上記の物語はコールバーグの弟子であるキャロル・ギリガンが道徳性発達理論の批判に使用したものです(前回のコラムをご覧になっていない人は、当社のHPのコラムをお読み下さい)。ギリガンは上記の(1)や(2)は「正義の道徳」、(3)や(4)は「配慮の道徳」の対処法だと言います。“他者への配慮(原文ではcare)による対処法”は道徳性発達段階では3段階目の「よい子ちゃん志向」と低いレベルになってしまいます。しかし、「配慮の道徳」の観点からは“正義の道徳による対処法”は低いレベルの判断基準ということになってしまいます。前回のコラムで紹介した道徳性発達の自分の段階を知ることと同様に、問題が発生したときに自分が正義と配慮のどちらを使って対処法を考えるのかを知ること、よい人間関係をつくるヒントになると思います。ちなみにギリガンは正義と配慮の対処法の違いを男女の違いと論じたので、ジェンダ

一論者たちの論争の対象になりました。

では、道徳の意味を“社会世活で個人が守るべき規範”と捉えて「正義の道徳」と「配慮の道徳」の違いから人間関係を考えるとどうなるのでしょうか？「正義の道徳」では公平性が重要視されます。公平な権利が尊重され個人の自立が重んじられますが、互いに孤立した関係になります。つまり、私たちは誰もが平等であるけれど孤独な存在ということになります。これに対して「配慮の道徳」では共感性が重要視されます。それぞれの個性やおかれた状況が尊重されますが、自分勝手という個性も尊重することになってしまいます。つまり、私たちは互いに助け合い迷惑を掛け合う相互依存の存在ということになります。

前回のコラムと今回のコラム 2 回にわたって、道徳発達の研究例を紹介しました。道徳性発達段階はとても面白い理論だと思うし、正義と配慮の道徳の違いもとても興味深いと思います。これらの研究成果を参考にして自分たちのことを考えてみると、PAM の利用者たち（それを間近で見る介助者も）は公平な権利が尊重されていないことや、他者の助けや配慮の必要性を身近に感じられる立場にあると思います。「正義の道徳」も「配慮の道徳」も、どちらの必要性も実感しやすい私たちは、そのどちらもが重要であることを、個々人や社会に対し発信する責務があるのかもしれませんが。それは、公平性と相互依存性が共に成立つ社会を実現させるための責務なのかもしれません。あなたならどう考えますか？

パソナルアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : pam@w7.dion.ne.jp 緊急時:090-1406-9367